

平成 24 年度 事業計画書

(環境認識)

当財団は、平成 23 年 4 月 1 日をもって公益財団法人才能開発教育研究財団に移行した。その 23 年度は東日本大震災の直後であり、公益法人として少しでも役に立てる活動をと心がけ、計画した諸事業はほぼ予定通り遂行している。だが日本経済の低迷と世界経済の不安定さは依然として予断を許さない。このような状況の中、新法人として 2 年目となる平成 24 年度は、財団の存在意義を内外に広めると同時に存続のための基盤強化を図ること、推進する諸事業が震災の様々な影響下にある教育現場の支援となるように配慮すること、そして関係する先生方、組織、法人との連携をさらに深めることが肝要であると認識する。

(基本方針)

以上の状況を踏まえ、本年度は次の 3 点を事業計画策定における基本方針とした。

- (1) 公益財団法人としての進むべき方向性は確認できたとの認識の下、それに沿った具体的中期目標に従い、各事業の発展的計画を策定する。
- (2) 当財団の活動を支援して下さる先生方、内外の組織、関係する諸機関や法人との連携を図り、当財団が中心となることによって、より社会に貢献する事業となることに心がける。
- (3) 公益財団法人としての存在意義と事業への賛同や理解を得るための広報活動に努め、主催する講演会、研修会、講座、教室、コンテスト等への参加を促すとともに、寄付や協賛を広く募るための準備活動を行う。

(事業活動)

各事業の主な点を掲げると、次のとおりである。

1 講演研修事業

- ① 教員研修は、中心事業として 8 月に主催する IMETS フォーラムについて、セミナー受講の機会を活用する自治体等、団体参加者の増を図るとともに、単独でのテーマ別研修会を随時開催する。
- ② 教員免許状更新講習は、IMETS フォーラム会場以外での開催の拡大を図る。
- ③ 教育工学研究協議会は、講演研修事業の活動主体としての位置付けをより明確にし、活動内容と組織の充実を図る。

2 養成研修事業

- ① 中心事業であるモンテッソーリ教育教師養成通信教育講座については、3 歳～6 歳コースの拡充を図るとともに、新しい 0 歳～3 歳コースを開講する。

- ② 活動主体である日本モンテッソーリ教育総合研究所は、研究施設としての附属「子どもの家」を、平成 23 年度に開始した 0 歳～2 歳児対象「たんぽぽコース」が通常クラスになるような環境に整え、0 歳から小学生までの流れに沿ったカリキュラムが実践できる施設としていく。
- ③ 季節ごとの土日曜日や夏休みを中心に開催する実践研修室は、新しい 0 歳～3 歳コースを開講するとともに、沖縄以外での地域の先生方との協力のもと移動研修室開催を図る。

3 才能開発コンテスト事業

- ① 第 49 回全国児童才能開発コンテストを主催し、例年通り作文、図画、科学の 3 部門における児童の作品を募集して、文部科学大臣賞他の多くの賞を贈呈、出版物やホームページ、各種マスメディアでの公開により顕彰する。
- ② 大きな節目となる第 50 回のコンテストに向けて、これまで開催してきたことの実績や成果を再評価すること、新たに「内閣総理大臣賞」を設けること、部門や対象者を拡大すること等のための準備活動を進める。
- ③ 震災復興支援にも関わる公益事業としての当コンテストの意義を広く告知して、寄付や協賛を得るための具体的活動を行う。

(本部事務局活動)

平成 23 年 4 月 1 日に公益財団法人へ移行してからの一年を振り返り、各事業の現状をさらに理解した上で、組織の充実と連携の促進、人材及び資金の確保、諸規程の確立を図り、財団の継続的運営のために尽力する。